

令和6年度 学校努力点研究推進計画

1 令和6年度 研究主題

自分を大切に 仲間も大切に～学び合い、チャレンジできる子どもをめざして～

2 主題について

昨年度、「自分を大切に仲間も大切に～自他を尊重し、学び合える学級をめざして～」を主題とし、学級活動の授業を中心とした実践を行った。互いを認め合える学級風土を目指し、自分や仲間のよさについて考える授業を、年間を通して全学級で行ったことで、児童は、ありのままの自分を受け止めながら自己の可能性に気付いたり、仲間の長所や内面を前向きにとらえたりすることができた。また、仲間と温かく関わり合うことのできる支持的で創造的な学級環境づくりにつながった。

ナゴヤ学びのコンパスでは、目指したい子どもの姿を「ゆるやかな協働性の中で自律して学び続ける」と示している。必要に応じて仲間の力を借りたり貸したりしながら学び合い、一人一人の思いやチャレンジが尊重される関係性を構築するため、昨年度の取り組みをさらに発展させ、より深い自己理解のもと、他者との関わり方について考え、実践する力や、学級・学校に貢献しようとする社会性を育てたい。

本年度は「社会性と情動性の学習（※SEL=Social Emotional Learning）」の考え方をベースに取り入れ、仲間との関わり方を身に付けられるようにしていく。学校生活の様々な場面で、どのように行動し、どのように仲間にアプローチしていけばよいのかを具体的に考えることで、関わり方の「引き出し」を増やし、多様な考え、異なる価値観をもった仲間と、適切な人間関係を築く力を育て、ゆるやかな協働性につなげたい。さらに、その仲間と共に、明確な目標や目的をもち、一人一人が意識して目標達成に向けて行動できるような機会を増やし、「できた」という成功体験を味わわせたい。

3 重点目標

互いを認め合える温かな学級風土の中で、より深く自分を理解し、多様な考えをもった仲間と共に学ぶ方法を身に付け、目標達成に向けて取り組むことのできる児童を育成する。

4 具体的な手立て

(1) コミュチャレ（社会性と情動性の学習）

子どもの人間関係能力を育てる「社会性と情動の学習(SEL)」の考え方を次のようにまとめる。

<人間関係能力の基本となる5つの考え方>

①「自分の感情を意識し、上手に調整する」→より深い自己理解

②「人の気持ちを理解し、共感を示す（適切な対応をとる）」

③「良好な人間関係を築き、維持し、修復する」

④「前向きな目標を自ら設定し挑戦する」

⑤「責任ある判断をする」

→自己実現の
方法を知る

→ソーシャルスキルの
獲得

上記を基に人間関係能力の育成に向けた学活の授業実践を、年間を通して計画的、段階的に実践する。

(2) マナチャレ（自己実現の場の設定）

月や週ごとの生活目標において、教師主導ではなく、児童自らが設定した目標に向かって、仲間と共に工夫して取り組むことで、自己実現の機会を設定する。

月ごとの「○○(が)できるようにするためには？」というテーマに基づき、各学級もしくは学年で「マナチャレ」を行い、具体的な目標設定を行う。週ごとに振り返り、実情に応じて新たな目標設定や取り組みを行う。

決定した目標は、掲示板に貼り出し、全校の児童が目にすることで意識付けし、さらに、他学級・他学年の取り組みからも学ぶことができるようにする。

<マナチャレの流れ>

月テーマの提示「○○できるようにするためには？」

→「第1週目の学級週目標決定」→「掲示」→「振り返り」

→「第2週の目標の再設定」→「掲示」→「振り返り」

→「第3週の目標の再設定」→「掲示」・・・

5 研究方法

(1) 教育相談アンケートの活用

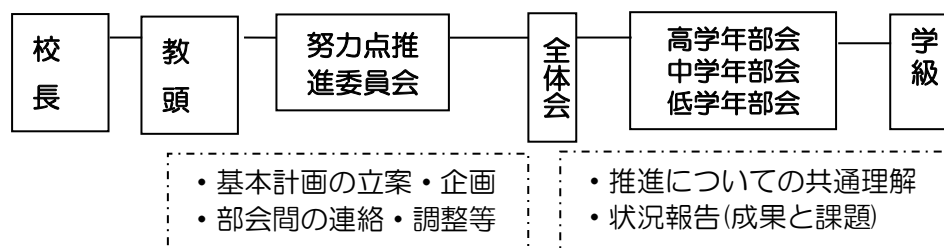
児童対象のアンケートにおいて、「自己表現」「自他を大切にする」「ソーシャルスキル」に関わる質問項目を設け、実態を把握して指導に生かし変容をつかむ。

(2) 公開授業

子どもの人間関係能力を育てる「社会性と情動の学習(SEL)」の考え方をベースに取り入れた授業実践はすべての学級で年間を通して実践するが、その中で計画的に授業公開を行い、各学級の実践が学校に波及していくようにする。

6 推進計画

(1) 研究組織



① 努力点推進委員会（努力点担当・低中高学年部会より各1名）

ア 研究主題、研究計画など研究の具体的な推進方法を検討・協議・確認をする。

イ 現職教育（研修）を計画し実施する。

ウ 実態調査の内容、項目の検討、作成、データの分析

② 全体会

ア 研究主題・推進計画の決定、推進状況等の報告を行う。

イ 学年部会や研究部会の研究の成果・課題等を報告し、情報交換を行う。

③ 学年部会

ア 低、中、高学年の三部会とする。低学年部会に特別支援学級、中学年部会に養護教諭、高学年部会に専科教諭が属する。

イ 年間指導計画、実践計画の検討、部会授業研究、指導法について検討する。

(2) 研究対象

- ア 実施教科等 学活を中心とした各教科・領域等
- イ 対象学年 全学年

(3) 年間計画

	授業実践	月目標チャレンジ
1 学期	<ul style="list-style-type: none">・ 授業実践の計画・ 授業実践（部会での事後検討会） <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px auto; width: fit-content;">・ 実態調査①</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px auto; width: fit-content;">・ 実態調査②（教育相談アンケート）</div>	<ul style="list-style-type: none">・ 月目標の設定と振り返り
2 学期	<ul style="list-style-type: none">・ 授業実践（部会での事後検討会）・ 他学級の公開授業の自学級への活用 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px auto; width: fit-content;">・ 実態調査③（教育相談アンケート）</div>	<ul style="list-style-type: none">・ 月目標の設定と振り返り
3 学期	<ul style="list-style-type: none">・ 「実践のまとめ」作成・ 学年部による成果と課題の検討・「研究のまとめ」作成（データ・冊子）・ 努力点報告会・ 次年度に向けて	